



07
-北部-

いしだ ようこ
石田 洋子

つぎはぎ農園 代表
ライター
農業生産法人アグリード 勤務

応募のきっかけは？

東日本大震災直後に東京で第一子を出産したことがきっかけで、移住を考えるようになりました。自然豊かな田舎暮らしの方がしっくりくると感じたのです。萩市大井の親戚の家に滞在したとき、その知人の古民家が空き家になると聞き、「そこに住もう」と決めました。

どんな活動をしたいと思っていましたか？

自然の恵みを活用する日常の風景に魅力を感じ、都市部と田舎をつなぐ活動をしたいと思いました。

隊員時代：イベント会場



着任前はIT業界で働き、未経験ながらもイベント企画や小商いにチャレンジしました。しかし、苦戦し、8割方は想像どおりにはいきませんでした。失敗を含めての経験が糧となり、心から好きなことを続けていこうと思うようになりました。

隊員時代の思い出を教えてください

やりたいことはすべてチャレンジし、青春を謳歌したような楽しさがありました。と同時に、卒業後の生業へのプレッシャーなど苦しさもありました。

萩市ふるさとツーリズム推進協議会の受け入れ家庭となり「民泊」を始めたこと、「体験プログラム」を作ったことは、今の活動につながっています。また、地域の特産品「玉ねぎ」の皮を使った草木染め体験を提供し、地元の事業者にも玉ねぎの皮のハーブティーを開発してもらったりもしました。そして、萩暮らしの魅力を伝えるリトルプレス『つぎはぎ』を創刊できたことが何よりの思い出です。ライターとしての仕事が増え、

現在の職場「農業生産法人アグリード」に出会うきっかけとなりました。

大変だったことは？

初めは、行政ならではの仕事の進め方がわからず苦労しました。積極的に周囲とコミュニケーションをとるべきだったと反省しています。

活動中のキーパーソンを挙げるとしたら？

同じ協力隊という立場の仲間です。悩みを共有したり、人を紹介してもらったりしたことがブレイクスルーにつながりました。

現在、そしてこれからについて

つぎはぎ編集部として、萩市のふるさと情報誌『はぎのね』の制作を行うなど、ライターをしながら、農業生産法人アグリードの従業員としても働いています。自宅の蔵を改修し、「つぎはぎ農園」として、フリーペーパー専門店「ONLY FREE PAPER」の萩拠点や、地域の自然を活かし手仕事を体験できる場を作るとともに、民泊もしています。

コロナ禍で影響を受けましたが、働き方も暮らし方も新しい時代にふさわしいあり方を模索していきたいです。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

「案ずるより産むが易し。当たって砕けろ」です。やりたいことを口に出し、いろいろな人たちに伝えていけると、それがかなうことを任期中に実証しました。

いしだ ようこ
石田 洋子さん

▶ 協力隊として

着任地 | 萩市
活動期間 | 2017年1月～2019年12月
活動内容 | 地域資産を活用した
観光・情報発信等に関する業務

▶ 現在の仕事

つぎはぎ農園 代表、ライター、
農業生産法人アグリード 勤務
ホームページ |
<https://tsugihagi.info/>



隊員時代：玉ねぎの皮での草木染め体験会



石田さんのあゆみ

- 2016.05 萩の古民家に出会う
- 2017.01 協力隊着任
- 2017.02 萩・明倫学園のホームページ、SNSなどを立ち上げ
- 2017.05 民泊開始
- 2018.07 リトルプレス『つぎはぎ』創刊
- 2018.09 以降年に2回ペースで発行
- 「山口ゆめ花博」で「玉ねぎの皮草木染め体験」を実施
- 2019.11 自宅の蔵の改修開始
- 2019.12 協力隊卒業
- 2020.01 農業生産法人アグリード勤務